

# 環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 生物多様性報告特別優秀賞 採点表（平成 29 年版）

環境報告書としてすぐれていることに加えて、生物多様性に対する取り組みに関する記述に優れた報告書を、特に下記の視点等で選考する。

<b>① 主要業務におけるマテリアリティ分析</b>	<b>MAX 10</b>
「3」	マテリアリティの分析をした結果、生物多様性の保全及び生物資源の持続可能な利用に関する影響について分析結果を公表している。
「2」	マテリアリティ分析レベルの総合的・体系的な評価は実施していないが、生物多様性と自社の事業との関係性について分析・課題認識をし、その内容を記載している
「1」	今後、生物多様性と自社の事業との関係性について分析することなどが記載されている
「0」	記述なし
<b>② 生物多様性基本方針</b>	<b>MAX 20</b>
「3」	バリューチェーンに配慮して、生物多様性の保全及び生物資源の持続可能な利用に関する影響を分析し、生物多様性基本方針を制定している。等
「2」	環境方針のなかに記述がある、等
「1」	生物多様性に取り組む方針がうかがえる、等
「0」	記述なし
<b>③ 目的・目標</b>	<b>MAX 20</b>
「3」	主要業務での生物多様性について数値化された目的・目標が明確に記述されており、目標達成年度を設けている、等
「2」	本来業務での生物多様性について定性的ではあるが目的・目標がかかげられている、等
「1」	生物多様性に関してフィランソロピーとしての目標等がかかげられている
「0」	記述なし
<b>④ 実施-1：自社グループ内での取組</b>	<b>MAX 15</b>
「3」	直接管理下にある事業活動に伴う生物多様性への評価を実施しており、ミティゲーション、オフセット等の手段を講じていることを公表している、等
「2」	工場や施設及びその周辺での生物多様性保全についてのさまざまな活動を実施し、公表している、等
「1」	生物多様性保全の項目はあるが、生物多様性との関連性が薄いと思われる取組についての記載のみである。
「0」	記述なし
<b>⑤ 実施-2：上下流における取組</b>	<b>MAX 15</b>
「3」	バリューチェーンマネジメントを含め、ライフサイクルを通じて生物多様性に対応している、等
「2」	3R等に配慮し、循環資源の利用・活用に配慮している、等
「1」	生物多様性に配慮している方針はあるが、具体的な内容・取組が記載されていない、等
「0」	記述なし

⑥ その他 NPO との協働、植林等のフィランソロピー、等 MAX 10

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

⑦ 総合評価 MAX 10  
以上